（様式２）報告書

令和５年度　英語教育実践研究校報告書
伴中学校区

１　学校の課題

本校の生徒は、素朴で学校行事や学級活動に前向きに取り組む生徒が大半であるが、基礎学力の定着度や学習に向かう姿勢に課題がある生徒や人間関係を上手く構築できない生徒も多く存在し、これらは中学校だけではなく中学校区全体の長年の共通課題である。具体的には以下の４点である。

- なんとか通じるレベルでのやり取りができる生徒が増えてはきたが、まだまだ基礎・基本の定着や正確さについては課題が多い。
- 教科書の内容が難しくなり覚えることが増えた分、学習が進むにつれて「英語の勉強は好きです。」と答える児童生徒の割合が減少している。【小中】
- 校外の英語を活用するイベントには人数制限がある上に、家庭が遠方の生徒もいるため、多くの生徒が参加することができないことから、実際に外国の方と英語でコミュニケーションする場が少ない。
- 児童同士の英語を使ったコミュニケーションへの意識をもっと高めていく必要がある。【小】

２　研究主題

自分の考えや気持ちなどを即興で表現できる生徒の育成
～具体的な「目的・場面・状況」、「学び合い」のある授業を通して（２年次）～

３　取組内容

⑴　英語授業の充実

①　ＡＬＴを活用した取組

○　ＡＬＴの配置（１名）　月～金曜日８：３０～１７：００（休憩４５分）

・１学年７学級、２学年７学級、３学年７学級に週１回程度、特別支援学級に年に数回配置
・小学校２校に年４回配置（３～６年）

○　授業での活用例

・各活動の中間指導（ＪＴＥと共に）　・インタビューテストの実施
・ライティング、スピーチ指導　・文化紹介　など

②　英語力の検証

【中学校】○　インタビューテスト・ペーパーテスト・スピーキングテスト　※年２回（２学年のみ）
○　生徒アンケート　※年３回（３学年のみ２回）

【小学校】○　インタビューテスト　※年２回（６学年のみ）
○　生徒アンケート　※年２回（６学年のみ）

③　英語の授業改善

○　授業の帯活動の中に、英語でやり取りする場面を設定する。
○　明確な目的や場面、状況下で言語活動をさせる中で、ＡＬＴと中間指導を中心とした授業を行う。
○　各学年における学習到達目標と年間指導計画を定め、定期的に達成状況を把握する。
○　外国語科（英語）教員は年に１回研究授業を実施し、指導主事から指導助言を受け授業改善に生かす。

⑵　英語を使う場の多様化

①　授業以外でのＡＬＴの活用

○　放課後学習会等を利用し、ＡＬＴと生徒との交流機会をつくる。

○　ＡＬＴや生徒による相互文化学習の機会をつくる。

○　ＡＬＴが英語以外の授業や行事へ参加する。

②　スピーチコンテスト等への参加

○　中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」、広島市英語暗誦大会へ参加する。

③　E-Camp への参加

○　イングリッシュ・キャンプへ参加する。

④　図書室等の効果的な活用（イングリッシュ・コーナー等）

○　海外文化紹介コーナーや英語の書籍等を整備する。

⑶　学習支援

①　デジタル教材等の活用

○　デジタル教科書（学習者用）、ドリルソフトの活用方法を研究する。

②　教育支援システムの活用

○　Google classroom、ミライシード等を活用する。

⑷　小中連携

①　小中担当者会

○　中学校研究推進リーダー１名、小学校に英語専科教員１名、英語担当教員１名が必要に応じて担当者会を開催し、取組内容の進捗状況確認や情報交換、指導案検討等を行う。

②　中学校英語教員と小学校英語チームとの連携

○　小中合同研修会において、各校の課題と今年度の取組の方向性や進捗状況等を共有する。

③　伴中学校区小中７年間（小学３年生～中学３年生）を見通した「CAN-DO リスト」の作成

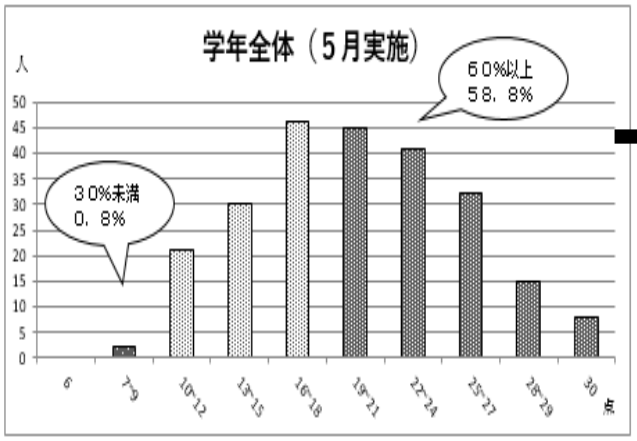
④　ＡＬＴ派遣授業

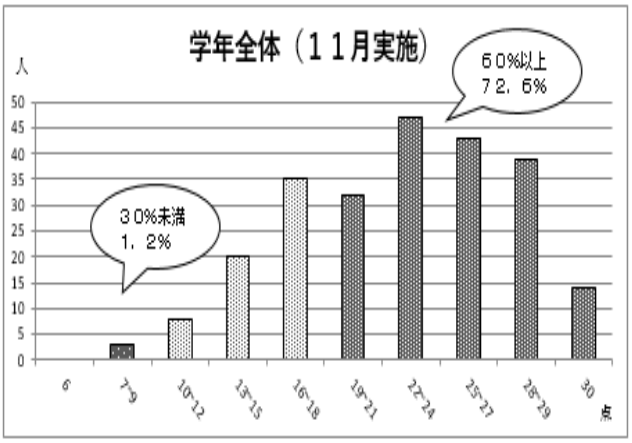
○　年に４回ほどＡＬＴを小学校に派遣し、中学校の取組が小学校でも活かせるような授業づくりに努める。また、小学校における検証テスト（インタビューテスト）もＡＬＴが行う。

４　検証結果

＜中学校＞

⑴　インタビューテスト（２学年対象：５・１１月実施）





⑵　**ペーパーテスト標準学力調査**（２学年対象：５・１２月実施）

◎目標値との差　…　-1.1 → +4.5
全国正答率との差　…　+3.1 → +5.0

	本校正答率	目標値	全国正答率
５月	49.2%	50.3%	46.1%
12 月	55.1%	50.6%	50.1%

◎領域別正答率の「聞くこと」では、５月は目標値や全国正答率も下回っていたが、１２月は目標値、全国正答率とも上回った。
※「読むこと」「書くこと」は参考数値として掲載

		本校正答率	目標値	全国正答率
５月	聞	53.4%	60.6%	57.4%
	読	52.5%	53.2%	50.7%
	書	40.9%	37.0%	29.6%
12月	聞	61.0%	57.8%	58.5%
	読	57.5%	54.3%	54.4%
	書	45.6%	37.8%	34.8%

⑶　**スピーキングテスト**（２学年対象：６・１２月実施）

◎　市町村平均との差
【１回目】リーディング…　＋0.3
スピーキング…　- 2.4
【２回目】リーディング…　- 0.9
スピーキング…　- 2.7

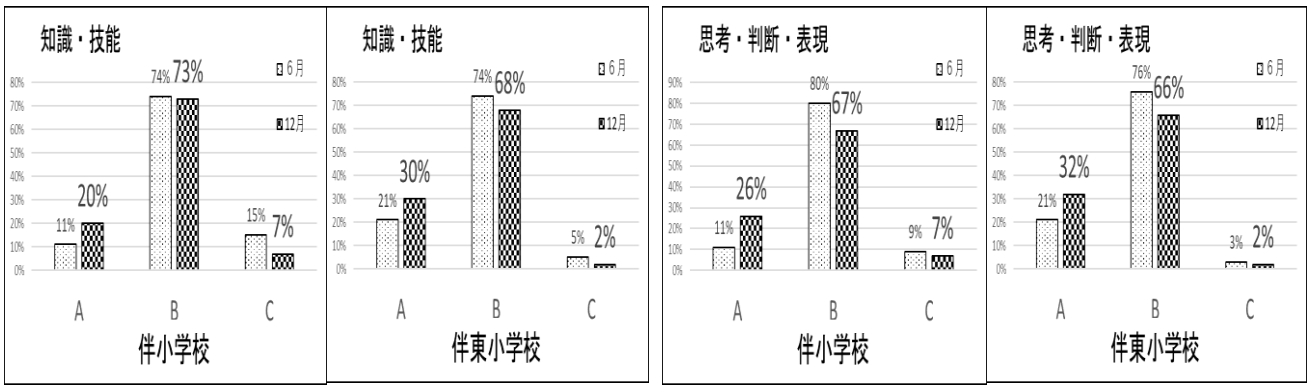
		本校	市町村平均
６月	読（総合得点）	9.2／15 点	8.9／15 点
	話（総合正答率）	38.4%	40.8%
12月	読（総合得点）	7.9／15 点	8.8／15 点
	話（総合正答率）	34.1%	36.8%

⑷　**生徒アンケート**（全学年対象：５・１１・２月実施）　※２月は１・２年のみ

今年度重点６項目の結果
◎「6：ふだんの生活のどのような場面で使えるか考える」56.9% → 62.6% → 64.6% (+7.7)
◎「8：相手からの質問や依頼を注意して聞き、それに答える」85.3% → 84.0% → 86.1% (+0.8)
◎「10：自分の考えや気持ち、事実などを英語で話す」82.1% → 84.2% → 86.0% (+3.9)
◎「13：間違いを恐れず自分の考えを話す」70.8% → 75.1% → 76.4% (+5.6)
◎「14：問答したり意見を述べ合う」75.2% → 76.4% → 78.9% (+3.7)
▲「18：ＡＬＴの授業を今後も受けたい」92.4% → 92.6% → 90.9% (-1.5)

＜小学校＞

⑴　**インタビューテスト**（６学年対象：６・１２月実施）
※ＡＬＴと１対１で、１分間のインタビューを実施



⑵　**児童アンケート**（６学年対象：６・２月実施）

今年度重点項目の結果
◎「4：英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。」
伴小 68% → 86%(+18%)、伴東小 84% → 98%(+14%)

５　研究成果

＜達成目標との比較＞

指標	達成目標	結果
【中学校】２学年５・１１月 インタビューテスト（英検３級相当）	60%以上取得生徒が２学年全体の 60%以上である。	５月 58.8% → １１月 72.6%
【中学校】２学年５・１２月 ペーパーテスト	「聞くこと」の全国平均値の＋１ポイント以上である。	聞 伴中 61.0%、全国 58.5%
【中学校】２学年６・１２月 スピーキングテスト	スピーキング総合正答率が 30%以上である。	６月 38.4% １２月 34,1%
【中学校】全学年５・１１・２月 生徒アンケート	課題項目の半数以上が前期よりも 3%以上向上している。	４／６項目が 3%以上向上
【小学校】６学年６・１２月 インタビューテスト	評価項目 B 基準の児童が 70%以上である。	知技 B 以上 伴小 93%、伴東小 98% 思判表 B 以上 伴小 93%、伴東小 98%
【小学校】６学年５・２月 児童アンケート	前期よりも項目４の割合が 3%以上向上している。	伴小 68% → 86%(+18%) 伴東小 84% → 98%(+14%)

小・中学校とも当初掲げた達成目標をクリアすることができた。この研究の成果（◎）と課題（▲）として以下のことが挙げられる。

◎　授業に英語でやり取りする時間を多く設け、質問で使われた文法表現を使って答える練習を重ねてきた結果、質問に応じた適切な表現を用いて答えられる児童生徒が増えた。
◎　目的・場面・状況を設定した上で「実践→中間指導→実践」を積み重ねることで、多少の誤りはあるものの、自分の意見や考えを表現できる児童生徒が増えた。
◎　考えを交流する授業では、事前にマッピング等を使って伝えたい内容を整理、深化させることで内容面の充実（適切さ）につながった。
◎　自分の考えを伝えてから相手に関連質問したり、感想や気持ちを詳しく伝えたりする活動を多く積ませることで、「自分の考えや気持ちを英語で話す」の肯定的評価の向上につながった。
◎　タブレットの活用は、パフォーマンステスト等に向けた個人の取組が充実するだけでなく、グループでの協働的な学習や全体共有等にも大いに役立ち、主体的に学習に取り組もうとする児童生徒が増加したことから、英語学習への関心・意欲の向上にもつながった。
▲　英語を使ったコミュニケーションへの意欲が育っている児童生徒が増えている一方、英語学習に対して否定的回答もあり、英語の授業に苦手意識を感じる児童生徒もいる。

＜今後の取組＞
・　帯活動として単語や語順等の基礎的なドリル問題に繰り返し取り組ませる。
・　具体的な目的・場面・状況を設定した中での表現活動を通して、生徒に英語を使わせながら中間指導をくり返し、正確さの向上に努めたい。
・　タブレット活用した授業の研究を引き続き行い、児童生徒の英語学習への関心・意欲の向上と基礎・基本の定着につなげていきたい。

伴中学校における取組等の詳細はこちら

伴中学校区の小学校における取組等の詳細はこちら